

ごあいさつ

委員長 高見 佳澄

山形県PTA連合会母親委員会の活動に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。各郡・市PTAの母親委員会におかれましては、今まで経験したことがないコロナ禍において、感染防止に努めながらできる限りの活動をしていただきありがとうございました。

県P連の母親委員会においても一回目の委員会は書面会議になったものの、二回目の委員会からは感染防止に努めながら、「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や、各郡・市Pの母親委員会の活動について情報交換を行いました。また、視察研修では、山形市P連の母親委員と交流を図るとともに、山形市PTA連合会と山形市PTA連合会母親委員会共催の「いのちの大切さ学習会」に参加し、家庭での性教育の大切さについて学びました。ぜひ皆様にも掲載記事をご一読いただき、家庭における性教育を考えていただければ幸いです。

男女平等がさげばれ、母親委員会は時代遅れではないかとのご意見もありますが、山形県はまだまだお父さん方がPTAで活躍してくださる県です。そのため、母親委員会は、子どもにとって一番身近な存在である“お母さんの思い”を共有することができる大切な場と捉え、母親同士のネットワークの素晴らしさや母親としての細やかな心づかいなどの利点を活かし、父親のみならず子育てに関わる方々と「子どもたちのために何ができるのか」共に考え、活動につなげていきたいと思えます。

どんなに時代が変わろうとも、子どもに必要なのは、私たちの無償の愛とスキンシップということには変わりはないと思えます。また、子どもたちの抱えている課題を解決するには、親同士がつながり、情報を共有することが重要ではないかと思えます。このような時だからこそ、子どもとの「かかわり」と親同士の「つながり」を大切にしながら活動してまいりたいと思えます。

各地区の活動報告



【令和2年度 母親委員会】

《山形市》

- ・テーマ「いのちの尊さ大切さ」
～かかわる喜びつながる心～
- ・定例母親委員会3回（書面会議・中止・2月19日）
- ・拡大母親委員会1回
研修：「いのちの大切さ学習会」（県P親学補助事業利用）
講師：井上聡子氏（さとこ女性クリニック院長）
- ・“親学”家庭教育視察研修（山形市青少年指導センター視察）
- ・母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.25発行

《東置賜地区》

- ・地区Pでは組織化されず活動なし。（単位P3校での組織・活動あり）

《酒田飽海》

- ・母親委員会（情報交換・講演会）
講演：「子どもの心が見えますか。親と子の幸せを祈る助産師からのメッセージ」
講師：後藤敬子氏（ごっと助産院 院長）
- ・酒田飽海PTA研修大会への協力（中止）

《東田川郡》

- ・定例母親委員会（中止）
- *活動報告
- *情報交換等



《米沢市》

- ・定例母親委員会（中止）
- *活動報告
- *情報交換等

《鶴岡市》

- ・鶴岡市P連研修大会への参加（中止）
- ・市教育委員会との教育懇談会（正副委員長のみ参加）

《西村山》

- ・代表委員会 1回
（活動報告・情報交換）

《西置賜地区》

- ・地区母親委員会（中止）
- ・「母親委員会だより」（中止）

《最上地区》

- ・地区母親委員会1回（中止）
- ・代表母親委員会研修及び情報交換会（中止）
- ・母親委員会だより「かあちゃんほっとらいん」発行予定

《上山市》

- ・母親委員会 1回（書面会議）
- ・上山市PTA連合協議会兼母親委員会保護者研修会
研修：「自分も相手も大切にすることにかかわりに必要なこと」
講師：副島賢和（そえじままさかず）氏

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会（中止）
- ・母の集い（中止）
各校単位PTAより2名以上の参加を要請して行う。
- ・「母親委員会だより」発行

《北村山》

- ・村山市P：読み聞かせ/おたより発行
- ・尾花沢市P：委員会/おたより発行
- ・大石田町P：読み聞かせ/おたより「母親伝言板」発行
- ・東根市P：組織なし



子どもを取り巻く性に関する問題、学校での性教育、インターネットなど親の目の届かないところでの問題等、保護者が子どもに対しどう教えるべきか、コミュニケーションの取り方についてお話を聞きました。

常日頃の家庭内コミュニケーションは大事、性に関しても、包み隠さず一緒になって向き合うことも大切なのだと、考えさせられるひと時でした。

成長するにつれ、だんだんと親も目が届かなくなる中、子どもが自分で身を守るための手段として親も、恥ずかしがらず嘘をつかず、プライベートゾーンや生殖の仕組みを伝えることが必要だと感じました。また、性教育にお勧めの著書やHPを活用して伝えることもできるとのこと。家庭でのいのちと性の話をすることは大事だと思いました。 西村山P:光位紀子

…思春期相談の主なもの…

- ◇ 月経のトラブル
- ◇ 計画外の妊娠
- ◇ 男子の悩み
- ◇ 性感染症
- ◇ 性被害

【子宮内膜症】

子宮内膜が卵巣や腹膜で増殖する病気で、月経のたびに進行する。

思春期女子の月経トラブル

- ・ **月経痛** (月経になるとおなかがすごく痛い) 欠席や保健室での休養が必要ななら婦人科受診を。(unnecessary 内診はしません)
⇒若年の月経痛は子宮内膜症の予備軍かも
⇒ピル(排卵を休ませる薬)でコントロール
- ・ **無月経** (月経が途中から来なくなった)
思春期外来における続発無月経の原因の63.6%が体重減少によるもの
⇒将来の骨粗しょう症や不妊症に繋がるかも

思春期男子の男性器の悩み

- ・ **ホームページの活用** (泌尿器ドクターHP) 子どもに自分で調べるように促すことも手立ての一つ。
⇒検索:「コンドームの達人」岩室紳也先生(泌尿器ドクター)のHP
- ・ **射精を肯定的にとらえられるような教育** 子どもが自然に学習するのを期待するのは無責任。ルールを守って性的欲求のコントロールができるように具体的な教育が必要。

計画外の妊娠

- ・ **20歳未満の人工妊娠中絶率**
山形県は全国43位と低い数字であるが、全国の初交経験率によると中学生は、わずかに増加している。
- ・ **若年者出産のリスク**
高い離婚率や貧困の連鎖、乳児虐待等があげられている。

性感染症(STI)

- ・ **クラミジア感染症**
STDの約5割を占め特に20未満の患者が増加。ほとんど自覚症状がなく、HIV感染/エイズの危険率が3~5倍になる。
- ・ **HPV(ヒトパピローウイルス)感染**
子宮頸がんや陰茎がん、咽頭がん等の原因になる。

性被害

- ・ **居場所のない子を搾取する**
JKビジネスは性被害の危険が潜んでいるかも。「チャットでは優しい、会ってみたら…」SNSでの出会いの機会も要注意。
- ・ **性被害を受けたら**
自分のことでも友達でも、相手が先輩・先生・コーチ・親…誰でもあっても、相談してほしい。

数年前までは、HPVワクチン(子宮頸がん予防接種)の副反応による障害や後遺症が報告され問題視されたが、現在は安全なことが立証されている。

予防接種を子どもに受けさせることは子どもの身の安全を守る一つの手段かも

山形の相談窓口【ベにサポやまがた】

月~金 10:00~21:00(祝日・年末年始は除く)
TEL:023-665-0500

全国共通短縮ダイヤル【内閣府男女共同参画局】

#8891 #早くワン(ストップ)
※全国どこから電話しても、最寄りのワンストップ支援センターに繋がります。

視察研修「いのちの大切さ学習会」 …感想…

子どもたちは、思春期の多感な時期に、いろいろなことを感じ学んでいます。その中で、性に関する間違った情報がネットなどを通し子どもたちへ伝わっています。性に関して、家庭でも話することがない、できれば避けていたと思います。私たち親も性に対する正しい知識が必要であり、そして、子どもたちに正しく伝えなければならないと感じました。性に対する考え方、いのちの大切さ、性とは命につながる大事なことです。子どもたちの幸せな将来のため伝えていこうと思います。

東置賜P：古澤美紀子

視察研修「いのちの大切さ学習会」 …感想…

月経トラブル、計画外妊娠、性感染症、性被害、…コロナ禍による学校休校で中高生の妊娠相談が増加している現状。思春期の娘がいるため、興味を引く、「目からうろこ」の内容でした。

今回の資料を何気なく娘に渡してみると、「学校で聞いた内容と似てるね」との答えが返ってきました。学校でも助産師さんを招き、授業の中で年1回は性の講演を聞いているようですが、その内容までは聞いたことがありませんでした。私の世代は、男女別に初経教育を受けた程度。今は、男女一緒に性教育授業のようです。思春期になり体重の増減を気にしている面もあり、「今は骨量貯金の時期で、過度のダイエットは将来のためにも危険である」ことを伝えました。

インターネットや友人との会話からの情報、子どもたちは親よりも様々な情報を持っているかもしれません。しかし、これを機会に、もっと子どもとの会話をもち、はぐらかさず正しい知識を伝えていかなければならないと感じました。信頼され、いざというときに相談してもらえる大人になるために…。

学びの多い、とても有意義な話を聴くことができました。

最上P：丹 貴子

母親委員研修

「家庭でできるいじめ対策」

令和2年9月26日（土）

講師：佐藤博之 氏（県P連会長）



県PTA連合会の佐藤博之会長より「家庭でできるいじめ対策」と題して講話をしていただきました。まず初めに、そもそもPTAとは、学校と保護者は同じ目的を持ち同じ方向を向いている仲間なのだから、互いの間の溝を取り払って、共に学校について語り合う仲間になろう、学校と地域との連携が必須であり、地域の方々と積極的に関わりを持ち、ともに子どもたちを育てていこう、というお話がありました。

「性格はしつけと関係あるのか？」という問いに対し、性格は、遺伝50%、しつけ6%、環境44%が影響するというデータを紹介し、「環境44%」の中には「家庭で見せる親の後ろ姿」もあり、子どもに対して親が仕方なくいやいややっている姿を見せるのか、積極的に楽しんでいやっている姿を見せるのか考えてみましょう、そして、「会津藩幼年者『什の掟』」から「ならぬものはならぬのです」ということをきちんと教えましょう、というお話がありました。

最後に、ご自身の幼少時代の実体験から、「私の最終的な目的はたった一つ、いじめによって自ら命を絶つような悲劇は絶対になくすこと」とお話しされ、ミスターチルドレンの楽曲「タガタメ」の中から、歌詞の一部を紹介されました。

… 子どもらを被害者にも 加害者にもせず この街で暮らすため まず何をすべきだろう?でももしも 被害者に 加害者になったとき かるうじて出来ることは 相変わらず 性懲りもなく愛すること以外にない …

さて、私たち親が、家庭でできることは何でしょう。それは、物事に取り組む時には前向きに積極的な姿勢を見せること、子どもに対しては「性懲りもなく愛すること」です。自分を大切にできる子は他人を大切にでき、たくさんの愛情を受けた子は、自分を大切にします。そして、積極的に「あなたは大切よ」と子どもに伝えたいものです。

米沢市P：中根玲子

各地区PTA母親委員会の活動の様子



・・・上山市PTA連合協議会・母親委員会主催講演会・・・

演題：「自分も相手も大切にすることのかかわりに必要なこと」

～コロナ禍における子どもとのかかわり～

講師：副島賢和（そえじままさかず）氏（昭和大学大学院保健医療学研究科准教授）



11月7日（土）、副島先生をお迎えし講演会を開催しました。コロナ禍ということもあり、先生と会場をつなぎリモートで貴重なお話を伺いました。副島先生は、東京都の教員として25年間を過ごし、最後の8年間は昭和大学病院内学級「さいかち学級」の担任を務められました。その経験をふまえ、様々な問題を抱えた子どもたちとの関わりについてのお話でした。病院内学級で過ごす子どもたちの様子を中心にお話しいただいたのですが、病院内という環境を学校や家庭、所属している団体等に置き換え考えて聞くことができました。

子どもたちにとって大切なことは、自尊感情を育てる事。それには、子どもたちの“今”の感情を大切にすることだそうです。“今”感じている感情は間違っていないよと、受け止め寄り添ってあげる事がおのずと自尊感情を育むことにつながります。それは難しいことではなく、

- ・ご飯を食べて「今日のご飯おいしいね」と子どもが言え、「おいしいね」と返してあげる。
- ・「夕焼けがきれいだね」と言えば「きれいだね」、「ケガしたところが痛い」と言ったら「痛そうだね」と返してあげる。

普段、時間に追われてしまっている大人たちですが、しっかりと子どもたちの話に耳を傾けることが大切なのだと感じました。

子どもたちが日々みせる感情の後ろには、様々な願いが隠されているという言葉がとても印象に残っています。「自分は自分のままでいいのかな？」と日々悩む子どもたちに寄り添って、“今”感じている感情を言葉にすることを手伝い同調してあげることが「あなたはあなたのままでいいのよ」と自尊感情を育てる親の大切な役割であると感じました。コロナ禍で人とのかかわりが制限されている今、家庭でしっかりと自尊感情の基礎を子どもの中に育ててあげたいと思いました。

上山市P：小笠原舞



・・・酒田飽海PTA連合会 母親委員会主催 講演会・・・

9月24日（木）、後藤敬子氏（助産師・県家庭教育アドバイザー）をお迎えし「子どもの心が見えますか？～親と子の幸せを祈る助産師からのメッセージ」と題して親子のかかわり方についてお話を聞きました。今回、とても印象に残った言葉が2つありました。

一つ目は「心の絆創膏」、人は悲しいことや苦しいことがある度に、親や周りの人たちから心の絆創膏を貼ってもらっている。その繰り返しで強く優しい人になれる。誰かが苦しんでいるときに手を差し伸べられる人になれる。二つ目は「心のお引越し」、親が子どもに深い愛情を持って接していれば、将来離ればなれになっても子どもの心の中に親との記憶がしっかりと根付いている。親子の関わり方はそれぞれですが、子どもを心から愛し見守っていれば、必ず子どもに伝わり強い絆になると改めて感じました。

酒田飽海P：山木美奈



編集委員

山形市：高見佳澄/上山市：小笠原舞

天童・東村山：深瀬真生/北村山：細矢恵美子

西置賜地区：遠藤由可理

あとがき

コロナ禍で、今年度は生活の様式が一変してしまいました。戸惑うこともたくさんありました。様々な不安がある中、コロナ禍だから出来ないのではなく、どうすれば出来るのかと考えた一年間でした。今後も、母親委員会の意義を考え、どうすれば出来るのかを考え、子どもたちと成長していきたいと思います。多くの人と手をつなぎ、前を向いて進んでいきましょう！

上山市P：小笠原舞